

令和4年度病害虫発生予察注意報第3号

令和4年7月15日
愛知県

作物名：水稻

病害虫名：斑点米カメムシ類（イネカメムシ、カスミカメ類）

- 1 発生地域 県内全域
- 2 予想発生程度 多い
- 3 注意報発表の根拠

(1) 7月上旬の巡回調査における本田内の20回すくい取り調査（51地点101ほ場）で、イネカメムシの捕獲数は平均0.19頭（平年0.01頭、昨年0.05頭）と、過去10年と比較して最も多く、発生ほ場率は1.93%（平年0.86%、前年3.88%）と過去10年間と比較して2番目に高かった。

(2) 県内全域（弥富市、一宮市、名古屋市、西尾市、豊田市、新城市及び豊橋市）のほ場でイネカメムシの発生を確認した。

(3) 水稻ほ場（県内5か所）に設置した予察灯における斑点米カメムシ類成虫の6月第5半旬から第6半旬までの合計誘殺数は、弥富市で510頭（平年-頭*、前年33頭）と前年と比較して多く（15.5倍）、豊川市で169頭（平年81.0頭、前年39頭）と過去10年間と比較して最も多かった（図）。また、西尾市で143頭（平年44.2頭、前年17頭）と過去10年と比較して2番目に多かった。主な種は、弥富市ではカスミカメ類（アカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメ）、豊川市及び西尾市ではカスミカメ類（アカスジカスミカメ）であった。

*令和3年に調査地点を変更しているため、平年値なし

(4) 7月14日名古屋地方気象台発表の1か月予報によれば、向こう1か月は、平年と同様に晴れの日が多く、平均気温は、平年並または高い確率ともに40%と予想され、本虫の発生に好適な条件が続く。

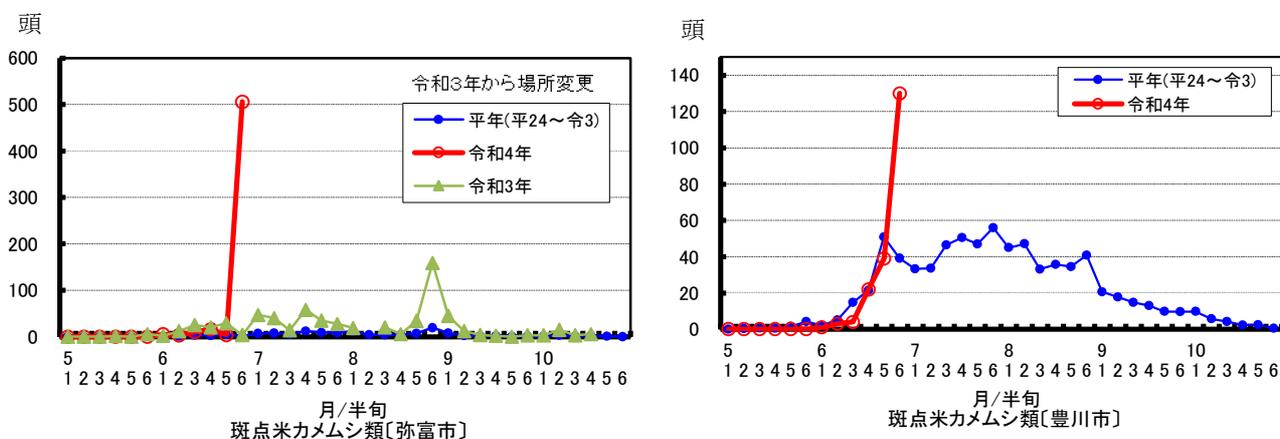


図 弥富市及び豊川市に設置した予察灯における斑点米カメムシ類の誘殺数

4 防除上注意すべき事項

- (1) 斑点米カメムシ類は水田周辺のイネ科雑草などで増殖するため、雑草の除去を徹底する。ただし、出穂間際または出穂後の除草は斑点米カメムシ類を水田に追い込むことになるので控える。やむを得ず除草を行う場合は、必ず薬剤防除を併せて実施する。
- (2) 水田内で穂をつけたヒエ類及びイヌホタルイは、斑点米カメムシ類の発生を助長するので除去する。
- (3) 周辺の水田よりも出穂が早いほ場では、斑点米カメムシ類が集中して飛来することがあるので特に注意する。また、前年にイネカメムシによる不稔粒が発生したほ場では、出穂前からほ場での発生状況に注意する。
- (4) 下表を参考に出穂時に薬剤防除を実施する。その後も発生が多い場合は、7～10日後に再度防除を行う。薬剤によって散布適期が異なるので注意する。

表 斑点米カメムシ類に対する主な防除薬剤

薬剤名	使用時期	本剤の使用回数	IRAC コード
トレボンEW	収穫14日前まで	3回以内	3 A
キラップフロアブル キラップ粒剤	収穫14日前まで	2回以内	2 B
スタークル／アルバリン顆粒水溶剤 スタークル液剤10 スタークル／アルバリン粒剤 スタークル豆つぶ	収穫7日前まで	3回以内	4 A
エクシードフロアブル エクシード粉剤DL	収穫7日前まで	3回以内	4 C

キラップ粒剤の散布適期は、出穂10日前から出穂期までなので注意する。

成分ごとの総使用回数に注意する。

IRACコードは殺虫剤の作用機構による分類を示す。

IRACコードの詳細は、

https://www.jcpa.or.jp/assets/file/labo/mechanism/2021/mechanism_irac03.pdf を参照する。

薬剤の使用に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。

5 連絡先

愛知県農業総合試験場環境基盤研究部病害虫防除室

電話 0561-62-0085 (内線471)